

❖ “言葉による伝え合い” ❖

相手と話すことの大切さをねらいとして昨年から引き続き取り組んでいます

入学当初の戸惑いや不安を1年生はどのように解決していくのでしょうか。「ボクはもう1年生だよ！一人でやってみよう！」とランドセルを背負って行く逞しい姿がありますが、学校生活では、様々な困難もあります。「自分が自分だ」と思っているにもかかわらず、子どもにとっては初めての友達に出会います。先生から教えられる“きまり”があります。学習することがたくさんあります。毎日教室で起こる些細な出来事は、子どもにとっては大きなことです。私たちは支援活動を通して、子どもの思いに気づき、見守り、時には助け舟を出します。影ながら応援したり、嬉しいときは共に喜んだり、子どもたちの自立を応援してきました。

❖ こんな姿に成長してきています ❖

3学期になり、教室ではペアやグループで友達と相談や話し合いをすることが増えました。自分の思いを伝えるために、言いたいことをあらかじめメモすることで、内容をしっかり伝える姿があります。思いを口にするのは伝える一歩。でもはずかしいから言えないと消極的な子どももいました。国語で「カードでお店屋さん」の授業がありました。同じクラスであっても今まで関わりがなく、話したことがない友達とグループを組み、品物を決め、カードに描いていく作業をしました。様子を見てみるとカード作りは、目的がはっきりとしているのでお互いに意見が言いやすく一緒にタブレットで品物の種類を探すこともできました。友達関係も知識も広がりました。



配り係のA児が名前を見ながら友達にプリントを渡しています。B児の名前をじっと見ながら所員に近付いて来ると「ねえねえ、これ見て！」と指で示しました。「なあに？名前うーんこれは読めないね」と言うと、B児に「ねえ、読めないよ！もっと丁寧に書いたほうがいいよ」とプリントを渡しながら話していました。この様子を見ていて、一学期の頃はドリルなどを配るとき「〇〇さんって誰？どこに座っているの？」と所員に聞くことがあり、名前と顔が一致するのに苦労していました。今は友達の様子が分かり、思ったことを伝えているようです。とても成長を感じました。また正しく読みやすい字を書くことで相手に分かりきちんと伝わると思いました。

❖ 子どもの気持ちに寄り添っています ❖

タブレットを使う場面で、もじもじしているC児のタブレットは画面が暗いままでした。「どうしたの？充電してなかったの？先生に話しておいで」と所員が話すと「言えない・・・」と小声で言いました。授業が始まって時間がたっていました。その間じっとしていたのです。「先生の所にいこう！」と促しました。自分から困ったことを話せないでいるとき、背中を少し押して見守るようにしてきました。またある授業で子どもたちは感想を書いていました。担任が様子を見回り、発表を促しました。所員も「〇〇さん、書いてあることを発表してみよう」と言うとうそ信がないように黙っていました。「いいこと書いてあるよ」と後押しすると担任はそれを知っていて「〇〇さん、書いてあるところを読んでみて！」と声をかけてくれました。小さな声でしたが発表ができました。「あれ、それだけではないよね。次に書いてあることが、先生は素敵だな！って思ったのよ。読んでごらん」と話されました。支援では、このように子どもの様子を担任と共有しています。子どもたちには、「言葉で伝えなければ思いは伝わらないよ！」と話しています。勇気をもって一歩踏み出してほしいです。



《 幼児教育センター所長 早川隆之より 》

この「STEP-UP」は保育園、幼稚園の保育者や小学校低学年の先生方に、読んで欲しいと願っています。それは、小1プロブレムと言われている課題解決には、保幼小のつながりが大切だからです。発達と学びの連続性を踏まえた幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方は、幼稚園、保育園でのアプローチカリキュラムと小学校でのスタートアップカリキュラムによるところが大きいと考えます。次の4点を保育園・幼稚園・小学校それぞれの教育課程・指導計画の中で考えてみましょう。

- ① 人や物事について興味・関心（好奇心・意欲）
- ② 自分でやってみようとする・かかわろうとする力（主体性）
- ③ 人の話を聞き、その言葉を受け止めながら考えを進めていく力（思考力・判断力）
- ④ 自分の気持ちや考えを伝えようとする力（表現力）

つながりましょう！

